



みどりの風

公益財団法人
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地
 TEL&FAX 0743-92-0346
 発行人 館長 上田 善紀
 発行日 平成29年11月24日(金) 第7号

月ヶ瀬文化祭特集①

晴天に恵まれた11月5日(日)、月ヶ瀬公民館を主会場として、平成29年度月ヶ瀬文化祭(主催月ヶ瀬文化協会・地域振興協議会)が開催されました。大西 博則実行委員長(文化協会・会長)による開会挨拶のあと、舞台発表、バザー、展示の3部門が一斉に始まりました。



台風被害のお見舞いの言葉も述べて開会の挨拶をする大西 博則さん

展示紹介

昨年まで展示会場として使っていた小学校の体育館が使えなくなったため公民館の研修室を主会場として、6団体4個人の方々が出品されました。なお、同じも園と小中学校の園児・児童・生徒の皆さんの作品は、それぞれの学校園にて展示されました。



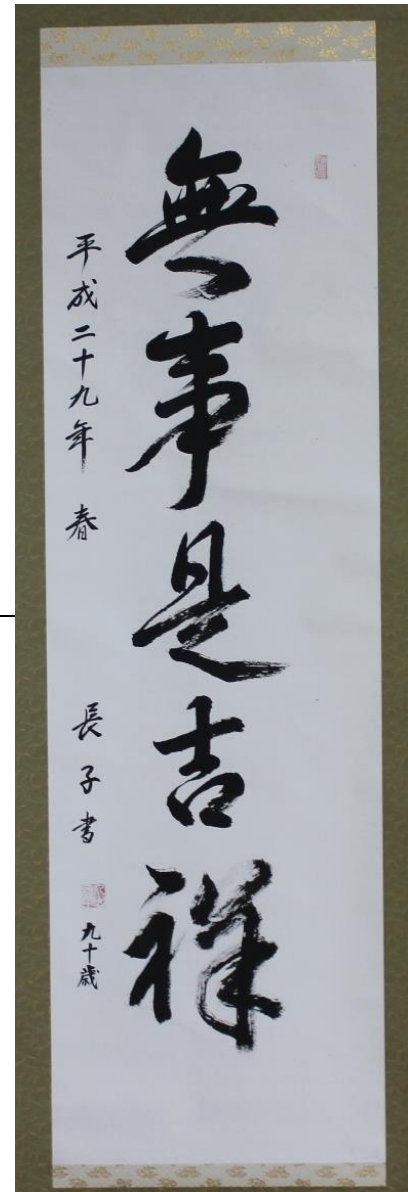
門本 文子さん(長引)のちぎり絵



⇨ お持ち帰りができました。好評ですべてなくなりました。



上岡 香緒里さん(嵩)の ↑ペーパークラフトのごみ箱



平成二十九年 春

長子書 九十歳

丸山 長子さん(石打)の掛軸
 *「無事是吉祥」(常に作為のない素直な心でいることが吉祥を招く)



↑ 福祉センターのデイサービス利用者の皆さんによる割箸アートです。8月に何を作るのか相談、設計図がないまま制作を始めました。着色がまだらになったり、パーツの場所がわからなかったり、試行錯誤の末、「月ヶ瀬橋」が出来上がりました。

月ヶ瀬薫風

月ヶ瀬文化祭の特集号です。年々、参加者が減少しているとはいえ、延べ840人もの方々が公民館に足を運んでくれました。▼バザーには、7団体が14品目を出品、展示には135点の出品がありました。また、ステージ発表には、小学生から高齢者まで103人が舞台の華となりました。▼今年も、丸山 長子さん(石打)が、立派な書を披露してくださいました。御年90歳の手練れ作品です。うかがえば、書道教室などには全く通わず、通信教育を続けて技能を深めたとのこと。▼「るる工房」という名前でクラフトや編み物などの制作を楽しんでおられるグループの方々の作品もまた、玄人はだしのものばかり。多彩な月ヶ瀬文化の展示でした。



↑ 岡本 泰紀さん (尾山) の写真



福祉センターでは、子育て支援事業の一環として、就園前の幼児とごのお母さんを対象とした「親子で遊ぼう」という取組を、毎月第2・4木曜に行っています。その様子を写真展示で報告してくれました。わが子に愛情たっぷり表情を見せているすてきな写真ばかりでした。

俳句会

小谷 ますみ・選



文化祭出品作品

よききの鳴くも姿はよしの上
朝霧の晴れて前山秋に入る
幼児の歩巾の中にかたつむり
ふの里の家のにほひや盆の月
束の間の夕日に映える初紅葉
大野分け秘めし一日や国選日
諭されて子らのうなひく夏帽子
夏霞彩を一つに申と湖
水色の帯は蛍の川となり

11月の俳句 月ヶ瀬句会より

波清越えひときは蒼き月ひこつ
八十路はよ今があるのみ野老握る
軒下を借りて長雨菊の花
木の葉落し眠りを覚ますこんきつね
川筋を登れば母校小六月
はぐれ鹿三声の尖り峠越え
秋深む妣の歌声北の窓

【言葉の説明】

○野分：台風、または雨をともなわない秋の強風のこと。野原も草原も吹き分けるほどの風といふことかいらつまれた言葉です。
○野老：「ウジウジ」と読む。藪の中をうじうじ自生するヤマノイモに似た蔓草で、薬草になります。こがくて食べられません。

月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ

伝統を受け継ぐ月ヶ瀬っ子①

今年も、桃香野の子ども狂言を文化祭で披露してくれました。200年にユネスコ世界遺産(無形文化遺産)に登録されたのが、わが国の伝統芸能「能楽」です。その歴史は、奈良時代にまでさかのぼります。器楽、歌謡、舞踊、曲芸、奇術などバラエティーに富む「散楽(さんかく)」という民間芸能が、当時大陸から渡ってきました。

平安時代には、大きな寺社の保護を受けて、各地を巡回公演しながら存続させていきました。「猿楽(さるがく)」と呼ばれるもので

す。さらに、南北朝時代には、強大な勢力を誇る興福寺や春日大社などに属して祭祀や神事に奉仕する職能として確立していきます。歴史の教科書に必ず登場する、観阿弥・世阿弥父子が「能」として芸術性を高めたのでした。

その「能」が、いまでも桃香野で毎年秋祭りに奉納されているのです。そして、その流れをもつ「狂言」が、子どもたちによって、ついに継承されています。

今年も、今久保 胡々音(こくお)さん、倉家 奈々(くらや)さんの2人が「こは」という楽しい狂言をみじう演じてくれました。

しゃくにさわる妹役(今久保 胡々音さん)を振り回す姉役(倉家 奈々さん)。後ろは、演技を見守る後見の井ノ倉 清繁さん。



■今久保 胡々音さん…ずっときんちようしてたけど、ちゃんとやれてほっとした。言い合いをするところがたのしかった。

■倉家 奈々さん…ふりまわすとき、ぶたいから落とさないかしんぱいしていた。大きな声をだせてよかった。

■井ノ倉 清繁さん(桃香野)…6月から稽古を始めた。台詞を覚えるのしゃべり方が自然と早くなっていく。大きな声を出せば、ゆっくりになる。今日は落ち着いてせのびが言えてよかった。

この日の午後、2人は県庁前芝生舞台で能楽を演じました。